

全国養護教諭  
連絡協議会全国養護教諭連絡協議会ホームページアドレス <https://www.yougo.jp>NO.88  
会報令和6年3月 発行  
全国養護教諭連絡協議会  
代表者 辻野 智香  
東京都港区芝公園 2-6-8  
日本女子会館 4階  
TEL.:03(3433)5767  
FAX.:03(3433)5768

## 子供たちのウェルビーイングの向上のために

全国養護教諭連絡協議会

副会長 宍戸 朋子



会員の皆様には、日頃より本会の運営、活動に対し、深いご理解とご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

また、去る令和6年2月16日「第29回研究協議会」をご来賓の皆様方をお迎えし、参集で開催することができました。全国各地より多くの皆様にご参加いただき、盛会のうちに終了することができましたこと、厚く御礼申し上げます。

近年、学校現場はICT化が迅速に進み、子供たちの学習環境も養護教諭の職務も大きな変化の只中にあります。このような中、令和5年3月に中央教育審議会にて「次期教育振興基本計画について（答申）」が取りまとめられ、今後の教育政策に関する総括的な基本方針として「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられました。そこで、今回の研究協議会では、主題を『「時代の変化に対応した養護教諭の役割を追究する」～養護教諭が学校保健活動で育む子供たちのウェルビーイング～』といたしました。フォーラムでは子供たちのウェルビーイングを育むために、心身の健康を保持増進し自己肯定感を育む養護教諭の取組について、北海道教育大学の渡部基先生をコーディネーターにお迎えし、校種の違う4名の先生方からご提言いただきました。ご参加いただいた会場の先生方との活発な研究協議の時間を共有することができましたこと、参集での開催ができたからこそ嬉しく思います。私たち養護教諭が学校現場で大切にしてきたこと、丁寧に子供たちに関わってきたことこそがウェルビーイングを支える概念であることを皆さんと確認することができた時間だったと思います。

日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを教育を通じて向上させていくことが求められている今、保健室での子供たちとの日々の関わりや学校保健活動を通して、子供たちのウェルビーイングの向上が図られるよう、専門職としてのさらなる資質向上を会員の皆様とともに目指していきたいと思っております。

最後になりましたが、令和6年1月の能登半島地震で被災された皆様にお見舞い申し上げます。全国各地で様々な災害が起こる度に、災害を経験された地域の養護教諭から被災された地域の養護教諭へ、参考となる資料や実践の記録が送られていることをお聞きしています。全国養護教諭連絡協議会での横のつながりが核となり、そのような心温まる取組が養護教諭の先生方間でなされていることを誇りに思います。

本会では、養護教諭の資質向上を図るための研修・研究活動を充実させるとともに、職の充実・発展のために、関係機関との連携を図り取組を進めてまいります。これからも会員の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

祝 文部科学大臣表彰

令和5年度学校保健及び学校安全表彰

&lt;養護教諭&gt; 2名

山梨県  
滋賀県北杜市立長坂中学校  
元 大津市立皇子山中学校小泉 明美 先生  
広道 景子 先生

## 全国養護教諭連絡協議会に思うこと



公益社団法人 日本薬剤師会 会長 山本 信夫

全国の養護教諭の先生方におかれましては、日頃より学校保健の維持・増進に中心的な役割を担われ、児童生徒らの保健管理及び健康教育にご尽力いただいておりますことに心より敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。

昨年5月には3年以上も続いた新型コロナウイルス感染症との戦いに一段落がつき、その位置づけも「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」から「5類感染症」に移行しました。その結果、学校ではマスクを外した子供たちの笑顔が戻って参りましたが、一方で、これまで強力に推し進められた感染防止対策によって抑えられていたインフルエンザなど他の感染症の拡大が懸念されています。児童生徒らをこれら感

染症から守るためにも、この3年余にわたる感染拡大防止対策で学んだ手指消毒や換気等の健康習慣の継続が必要です。これまでの感染防止対策で得た経験をもとに、我々学校薬剤師とも連携を図りながら、ウイルス感染防止対策を講じていただくようお願いいたします。

さて、学校の内外を問わず、近年子供たちを取り巻く環境は刻々と変化し様々な健康課題が山積しています。学校3師はその課題解決に向けて養護教諭の皆様活動を支援しておりますが、学校薬剤師は学校における環境衛生保持とともに、児童生徒に対する健康教育への支援も行っています。本年度直面する喫緊の課題として、一般用医薬品を濫用した過剰摂取（オーバードーズ）等の防止への啓発を強化したいと考えています。

医薬品の適正使用教育（くすり教育）は、学校において実施可能な健康教育のひとつです。オーバードーズは濫用の恐れのある成分を含む医薬品を大量に服用することで、その結果、薬物中毒や依存症を引き起こす危険な行為です。こうした観点から、児童生徒らには大麻や危険ドラッグ等の違法な薬物の使用防止と併せて、医薬品の不適切使用についても薬物乱用防止教育の中で正しく知識を伝え、「不適切な使用を断るスキル」を育む支援が必要です。学校薬剤師は養護教諭の先生方のご協力を得て、学校の環境衛生活動を推進するとともに、薬事衛生を熟知した専門家として、くすり教育に加えて薬物乱用防止教育にも取り組んで参ります。

今後も、児童生徒らの身近にあって、「健康な現在と未来」を支える全国の養護教諭の皆様のご活躍を支援して参ります。

全国学校保健主事会 会長 中間 芳秀



全国養護教諭連絡協議会の皆様方には、平成3年の発足以来、全国養護教諭の研究組織として、研究協議会・研修会の実施、研究誌や会報の発刊など、長年にわたり児童生徒の今日的な健康課題を解決すべく、真摯に研究を積み重ねられ、学校保健教育に多大な貢献をされてこられたことに心から敬意を表します。

また、平素より全国・各地方学校保健主事会と深く連携していただき、学校保健活動の推進にご尽力をいただいておりますことに深く感謝いたします。

さて、新型コロナウイルス感染症については、感染症法上の取り扱いが5類に移行し、児童・生徒の学校現場における活動がそれ以前の状況に戻ってきたところです。しかしながら、インフルエンザをはじめとした感染症の流行が衰えを見せることなく、まだまだ予断を許さない中で、我々は児童・生徒の安全安心な学校生活を支えていくことが大切です。

このような中で、専門職として養護教諭は、中央教育審議会答申において、「学校保健活動の推進にあたっては、中核的な役割やコーディネーターの役割を担う必要がある」とされています。教育現場では、心と身体の健康（気力や体力）が本当に大切です。特にいじめ・不登校・薬物乱用他、教育課題が、大きな社会問題となっている今こそ、心と身体の健康が、道徳教育の推進とともに最重要課題であり、養護教諭、保健主事が連携し、心と身体の健康づくりに邁進していただきたいと思っております。

結びに、全国養護教諭連絡協議会の益々の発展と貴会の皆様のご活躍を祈念申し上げます。

# 第29回研究協議会報告

## 主 題

### 「時代の変化に対応した養護教諭の役割を追究する」

### ～養護教諭が学校保健活動で育む子供たちのウェルビーイング～

#### 特別講演

#### 「笑顔・素直・感謝」

シンガーソングライター

松本 隆博氏



#### 参加者感想

- ・歌を通して、思い起こされる気持ちがたくさん湧き上がりました。「ありがたいこと」は「当たり前ではないこと」、ついつい忘れてしまいがちなので日々大切にしていきたいと思いました。
- ・とても素敵な時間でした。涙が出て感動しました。日々の生活を当たり前だと思わずに、感謝して生きようと改めて思いました。
- ・とても感動しました。ぜひ、学校や地域の講演会で皆さんにも聞いていただきたい内容だと思いました。

#### 基調講演

#### 「これからの学校保健と養護教諭に求められるもの」

文部科学省初等中等教育局 健康教育・食育課  
健康教育調査官

松崎 美枝氏



#### 参加者感想

- ・最新の情報とともに養護教諭の軸となる大切な職務についてお話をいただき原点に立ち返ることができました。
- ・「養護教諭に担うことが求められる職務」など、私たちが臨む方向について理解することができました。
- ・健康診断における児童生徒のプライバシーへの配慮、感染症・アレルギー疾患対応など学校保健に関する最新の知見や情報について学ぶことができました。

#### フォーラム

### 「子供たちのウェルビーイングを高める養護教諭の取組 ～心身の健康を保持増進し、自己肯定感を育む支援～」

コーディネーター 北海道教育大学 理事

渡部 基氏



#### 参加者感想

- ・渡部基先生から「日本式ウェルビーイング」について解説があり、自己肯定感だけでなく、利他性・協働性も必要であるという説明に、人とのつながりや関係性を築きにくいと感じている人が増えていることに納得がきました。
- ・共感する内容や勉強になる内容が多く、参加して良かったと感じました。児童生徒と信頼関係を築くこと、「待つ」姿勢、専門性を活かすことが重要だと感じました。どういったことがウェルビーイングに繋がるのかを考える機会になりました。
- ・シンポジストの方の発表がとても素晴らしく、明日からの生徒の関わりに生かしていきたいと思います。シンポジストの方々も日々悩み葛藤される様子が伝わり、「自分だけではなかったんだ」という安心感と自信につながりました。

#### 全体の感想

- ・参集型で協議会に参加でき、直接お話を伺える会場ならではの雰囲気を感じることができました。
- ・貴重なお話を聞きし、仕事へのモチベーションにつながりました。学校や社会の価値観が大きく変化する中で、仲間と知恵をしばりながら実践を進めていきたいと思えます。
- ・今回初めて参加をさせていただきました。私はまだ自信がなく、挑戦できずにいることもあります。ですが、今回の研究協議会で専門職としての役割の大切さを改めて学び、もっと養護教諭として前に出て行動してみようと思いました。何をしても不安はつきものですが、まずはやってみる精神をもって頑張りたいと思います。

#### シンポジスト



大阪市立加島小学校  
養護教諭  
田中 舞先生



川崎市立日吉中学校  
養護教諭  
福寿 典子先生



愛媛県立新居浜西高等学校  
養護教諭  
鴻上 佳子先生



岩手県立盛岡ひがし支援学校  
養護教諭  
吉田亜希子先生

## 研究会交流コーナー

### ◆静岡県高等学校養護教育研究会

本会は、昭和29年12月「静岡県養護教員部会」として発足しました。その後、様々な組織改革を経て、昭和54年に教科研究会に準ずる組織として「静岡県高等学校養護教員研究会」となりました。平成9年静岡県高等学校教育研究会に加入し「静岡県高等学校教育研究会養護部会」へ名称を変更、平成25年度には、静岡県内すべての高等学校、特別支援学校が加入し、学校会員制の「静岡県高等学校養護教育研究会」へ名称を変え現在に至っています。現在は、学校数157校、会員数251人で活動しています。

#### 【総会・研修会・研究発表大会の開催】

本研究会では、子どもの多岐に渡る健康課題解決に必要な資質技能向上を図るため、例年7月に講演会、8月に夏期研修会、12月に研究発表大会を開催し、各地域の代表ブロックが研究活動の取組を発表しています。令和4年度には、1年延期となっていた職制80周年記念行事を静岡県養護教諭研究会と合同でハイブリッドにて執り行いました。記念式典では、これまで研究会を築き上げてこられた多くの先生方の功績や歴史を振り返り、養護教諭の原点に立ち返る貴重な機会となりました。コロナ禍を経て研修の在り方も様々な形となっています。対面・オンライン研修それぞれの良さを取り入れつつ、会員の資質向上へ繋げられる研修を行っていききたいと思います。

#### 【研究誌『歩み』の発行・養護教員に関わる実態調査・会員限定ホームページの運用】

例年2月に本研究会の研究報告書として健康教育に



関する研究報告「歩み」を発刊し、令和5年度で第58号となりました。この「歩み」は、様々な各研修の報告他、研究発表、養護教員に関わる実態調査、特集など多方面からの研究報告が掲載されています。中でも、「養護教員に関わる実態調査報告」は、平成13年度から職務の充実を図ることを目的に行われ、今年で20年余経過します。これまで行われた実態調査は、その時代における学校保健の実態把握や養護教諭を取り巻く環境を知る貴重な資料となり、調査結果は、養護教諭の職務見直しや各種要請活動の資料として活用しています。令和3年度には、会員限定ホームページを開設し、研修案内や研究発表資料の掲載など会員への情報発信ツールとして活用しています。まだ十分な運用に至っていませんが、会員が使いやすく、必要な情報を得ることが出来るホームページを目指して運用を進めています。

(文責 静岡県高等学校養護教育研究会 県事務局 澤田智英子)

### ◆愛知県立学校養護教諭研究会・愛知県学校保健会県立学校部養護教諭会

愛知県立学校養護教諭研究会は、昭和60年に愛知県立高等学校養護教諭部会という名称で、県立学校の養護教諭で構成された職能団体として養護教諭の資質向上及び学校保健の研究並びにその発展を図ることを目的に発足しました。令和5年度は会員数322名で活動しています。一方、愛知県学校保健会県立学校部養護教諭会は、昭和40年に愛知県立高等学校学校保健会養護教諭部会という名称で、愛知県立高等学校学校保健会発足と同時に小中学校から独立して発足しました。平成24年に組織が改編されて愛知県学校保健会県立学校部運営部会養護教諭会が発足し、平成27年度より現在の名称に改称しました。今年度は6月に総会並びに第1回研究会、10月に第2回研究会を開催しました。

#### 【研究誌『はぐくみ』の発行】

愛知県学校保健会県立学校部養護教諭会では、2年計画で調査研究を行い、研究誌「はぐくみ」を発行しています。令和5・6年度は「未来を生き抜く力を育てる健康教育の推進～ICT活用の実態から探る効果的な保健教育～」をテーマに取り組んでいます。会員へアンケート調査を行い、そこから見えてくる養護教諭が行う保健教育の実態や成果を踏まえ、ICTを活用した保健教育の効果的で実践的な進め方について研究しています（はぐくみ18集 令和7年3月発行予定）。

#### 【会報・機関誌『伸びる』の発行】

小中学校・義務教育学校の養護教諭で組織される愛知県



学校保健会小中学校部養護教諭会と定期的に小中高連絡協議会や編集委員会を行いながら、共同で「養護教諭部会報」、機関誌「伸びる」を編集し、年1回発行しています。

今年度の養護教諭部会報は特集テーマを「心の健康教育－シン・メンタルヘルス－」とし、第81号を発行しました。また、養護教諭の職制が制定されてから10年が経過した昭和28年に創刊された機関誌「伸びる」は、研修の場が少なかった当時から、県下の養護教諭の資質向上を図り、交流を深めることを目的に毎年発行しています。現在3月の発行を目指して第71号の編集作業を進めています。

(文責 愛知県立学校養護教諭研究会 会長 藤村みどり)

## ◆徳島県養護教諭協会

昭和22年に会員50人足らずで徳島県養護職員協会が発足しました。昭和38年に教育研究団体として認められるとともに、昭和40年に各校種の研究会の基盤ができ、本会と小中高教研を統合し、役員の一体化が図られました。平成元年に徳島県養護教諭協会と改め、会長・事務局は各教研が2年間の輪番で担当しており、今年度は309名の会員で活動しています。

### 【総会・研究会等の開催】

例年5月に総会、夏季休業中に養護教諭研究会を開催しています。昨年度はコロナ禍のためオンラインで研究会を実施しましたが、今年度は、徐々に規制緩和されてきたことや新型コロナウイルスが5類に移行したため、4年ぶりに対面形式で行いました。研究主題「時代の変化に対応した健康教育のあり方と養護教諭の役割」を掲げつつ、岡山大学大学院教育学研究科の三村由香里教授を講師に、「子どもの訴えに対する対応—養護教諭の資質向上のために—」と題してご講演いただき、各教研による研究発表と研究協議を行いました。久しぶりに活気のある研究会となり、会員同士が交流や連携を深める機会となりました。

### 【要望・調査研究活動】

毎年、適正かつ柔軟な人事異動、指導的立場で活動できる養護教諭の任命制度の導入などについて、県へ要望しています。働き方改革の波にのり、これまで以上に養護教諭の職務の在り方を考える機会となっています。感染症対策として保健備品の充実が進んできていますが、小中学校においては、毎年職務調査や保健室の設備備品調査を行い、職務環境の改善などの要望の資料としています。



さらに、教研別の保健統計調査の集計結果をまとめ、継続的に変化を見ていくとともに、各教研の課題を分析し調査研究を進めています。

### 【研究誌の発行】

研究誌「あしあと」を毎年1回発行しています。本会の活動や各教研の活動、研修会の報告を中心に今年度第69号となりました。先輩養護教諭のこれまで培ってこられた足跡であるとともに、貴重な資料となっています。次世代の養護教諭に受け継がれる大切なバトンです。

日常生活で起こる事故や疾病、自然災害などへの備えも含め、学校における課題は山積しています。養護教諭も世代交代が進むなか、今後も、会員同士のネットワークを大切にしながら、子どもたちの健康課題に適切に対応していくために、時代に応じた保健室経営の充実を目指し、その原動力となるよう努めていきたいと思っています。

(文責 徳島県養護教諭協会 会長 植原 智子)

## ◆佐賀県高等学校保健会養護教諭部会

本会は、昭和45年に「佐賀県学校保健会養護教諭部会」から分離・独立して「佐賀県高等学校保健会養護教諭部会」として新たに発足しました。現在、県立高等学校・中学校、県立・国立大学附属特別支援学校、私立中学校高等学校等の養護教諭約80名の会員で活動しています。

研究テーマ「生涯にわたって、心豊かに生きる力を育む健康教育の推進」を掲げ、今年度のサブテーマを「養護教諭の連携・協働できるコーディネート力を高める」としました。数年にわたるコロナ禍で、常にマスク着用で表情が見えない状況や、参集型研修の中止・時間短縮が求められる中、希薄になりつつある養護教諭同士の横の連携の必要性を感じ、今年度は特に交流を含めた研修に取り組みました。

### 【研修会、研究協議会の開催】

毎年度6月に総会・研修会、7～8月の夏季休業中に「一日研修会」を実施しています。今年新型コロナウイルスが5類感染症へ移行されたことを機に、感染症対策を継続しながら各研修会も以前の形に戻している状況です。

また、本会では「退職した養護教諭の先生より」としてご講話をいただいています。諸先輩の積み上げられた貴重な経験を共有させてもらうことで今後の執務に生かしています。

令和4年度は初めて「ジャパンタイムオンデマンド養護パッケージ」から10コンテンツ選び、「オンデマンド研修」を試みました。各々都合の良い時間に動画を視聴するという方法も今後の研修のあり方として取り入れていくことができればと思います。



### 【研究誌『わかくす』の発刊】

本会での諸研究の積み重ねや各研修会の足跡を残したいという会員の声に応える形で、昭和59年より研究誌「わかくす」を発刊しています。令和2年度からは内容の充実を図る目的で隔年発行となりましたが、令和3年度の第38号では「養護教諭制度80周年記念号」として、会長、県指導主事、OBの先生からの祝辞や会員11名による実践発表を掲載しました。各地区研究成果と合わせ、記念号にふさわしい内容となりました。

今、急速に変化する時代の中で生き抜くことができる子どもの育成が求められてきています。その変化に私達、養護教諭自身が柔軟に対応し課題解決へと導くことができるよう、養護教諭同士の横のつながりを大切に、お互いに支え合い、高め合える組織であり続けたいと思います。

(文責 佐賀県高等学校保健会養護教諭部会 部長 河野 恵)

## 令和5年度 理事会

### 【理事の先生方】

北海道 東北ブロック	大 木 亮 子 (福島県)
関東ブロック	東 真理子 (東京都)
中部ブロック	荒 俣 寿 生 (富山県)
近畿ブロック	久 保 真里子 (京都市)
中国・四国・九州ブロック	青 木 のり子 (鳥取県)



今年度は、令和6年1月13日（土）芝公園フロントタワーにおいて参集で開催いたしました。

役員から各係・委員会などの経過及び進捗状況、関連団体との連携について報告いたしました。情報交換では、「研修記録（履歴）の作成状況」と「退職養護教諭の活用」について意見交流を行いました。令和4年7月に施行された免許法の一部を改正する法律\*により、免許状の更新制に関する規定が削除されましたが、新たな研修制度として始まった「研修記録（履歴）の作成状況」については、研修の種類や記録の管理方法が地域によってさまざまでした。一方、自分自身の研修の足跡や職務の振り返りができる利点があることも共有しました。「退職養護教諭の活用」については、具体的な利点や効果、課題について意見交流を行い、文部科学省のスクールヘルスリーダーや学校保健活動の支援など幅広い活躍が紹介されました。また、本会HPの運用についてもご意見をお伺いしました。ご参会いただきました理事の先生、貴重なご意見をお寄せいただきました各研究会代表の皆様へ感謝申し上げます。

\*教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部を改正する法律

**速報!**

## 全国養護教諭連絡協議会 第26回研修会

- 1 開催方法：Web開催
- 2 開催（動画配信）期間：令和6年8月9日（金）から9月20日（金）
- 3 演題・講師

### 「勇気づけと承認のコミュニケーション」

(株)チームダイナミクス代表取締役  
人材育成・組織開発コンサルタント エグゼクティブコーチ  
Master of Science (MSc理学修士)  
早稲田大学オープンカレッジ 講師 **三浦 将**先生

### 「始まりは子供から」 —児童生徒らの今と未来を守る—

公益社団法人 日本薬剤師会 常務理事  
学校薬剤師部会 部会長 **富永 孝治**先生

### 「明日から役立つ」 保健室で行う判断・アセスメントのコツ」

千葉市立青葉病院 総合診療科 医長  
千葉大学大学院医学研究院診断推論学 医師 **廣瀬 裕太**先生

### 「児童生徒のメンタルヘルス」

奈良県立医科大学精神医学講座 教授 **岡田 俊**先生

- 4 その他：参加費（4講座一括）本会会員**5,000円** 本会会員以外**6,000円**

申込受付開始は、令和6年6月中旬頃を予定しております。

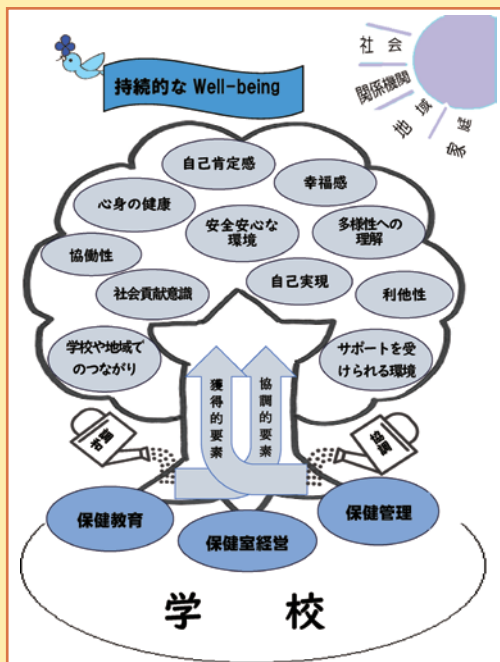
※養護教諭の資質向上を目指し、充実した研修となるよう様々な分野の先生方にご講演をお願いしました。今回もWeb開催で準備を進めています。動画配信はご都合の良い時間に視聴することができます。今から夏の研修計画に加えていただき、多くの皆様のご参加をお待ちしております。



## 瑞星編集委員会

\*\*\*実践事例集のテーマ\*\*\*

### 「ウェルビーイングを育む学校保健活動の推進 —調和と協調を意識した取組—」



#### <図示のポイント！>

「ウェルビーイングを育む」という実践事例集のテーマの全体イメージを「木」で表現

学校において実践する保健活動の中で「保健教育」「保健管理」「保健室経営」(木の根)に焦点をあて、「調和」と「協調」(じょうろ)を意識した実践を行い、教育に関するウェルビーイングの11の要素(木:木や幹)を育む。実践には家庭や関係機関などの大切な関わり(太陽)があり、持続的なウェルビーイングとして、児童生徒に培われていく。左の図示には、このような思いが込められています。

全国の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の養護教諭 21名の先生方に執筆を依頼しています。お楽しみに！

## 調査研究委員会

令和6年度、「養護教諭の職務に関する調査」を実施します。設問内容・対象者は以下のとおりです。設問内容により、対象者が違います。令和5年度の内容に関する項目がありますので、よろしく願います。

#### 令和6年度 養護教諭の職務に関する調査

##### 1 調査内容と調査対象者

設問内容	回答の対象期間	対象者
基本調査・日常の職務状況 複数配置の効果認識 健康教育実施状況 ICT活用状況等	R6年 4月～7月	R6年度 学校(園)勤務の <b>全会員</b>
相談・保健室と別室登校・児童虐待・ いじめ・特別支援教育・食物アレルギー	R5年度 1年間	・R5～6年度に継続して学校(園)勤務の全会員 ・新採用者、産休、育児休暇 傷病休暇、行政勤務者等、R5 年度に学校に勤務していない 会員は対象外

##### 2 調査方法 Web調査

- ・調査期間内に全国養護教諭連絡協議会ホームページ内の調査研究ページに設置する「職務に関する調査」へアクセスをして入力
- ・パソコン、タブレット、スマートフォンから入力可能